明治十七年内務部理事公文錄 九月

類冊架函

国立公文書館
分類
配架番号 2 A 34-2 ㊥1612

1612

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年 縁事院内務部理事公文録九月分

目録

宮内省上申 学習院職制章程創定ノ件

内務省大蔵省両省宮内省上申 岐阜県漁業税賦課ノ件

内務省大蔵省両省会議決不認可ノ件

文部省 兵事ニ関スル学校管理方ノ件

内務省大蔵省両省伺 福岡県漁業税則中改正ノ件

内務省上申 中央衛生会職制中改正ノ件

外務省上申 仏領交趾萬國電信條約ニ加盟ノ件

内務省伺 札幌根室両県下布告施行期限ノ件

全 市収税長大禮服ノ件

全 伺地券ニ関スル事務主管ノ件

農商務省伺 第三種第四種郵便物帯紙ヘ年月日記入ノ件

明治十七年八月廿五日達 一

全年九月三日達 二

全年九月廿五日指令

全年八月廿六日達 三

全年九月六日指令

全年九月廿三日達 四

全年九月八日指令

全年八月廿七日達 五

全年九月廿日指令

全年八月二日達 六

全年八月三日達 七

全年九月十日高覧

全年八月廿七日達 八

全年九月廿日指令

全年九月廿三日達 九

全年九月廿日達

全年四月廿六日達 十

全年九月廿日指令

全年九月一日達 十一

全年九月廿日指令

内務省

藥品取扱規則文字削除ノ件

全年月日
全年月日
各府県ヘ
告示

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

宮内省上申學習院職制章程創定之事

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治十七年八月廿日

可

太政大臣三條實美印

參議 大木喬任印

參議 山縣有朋印

參議 伊藤博文印

參議 西郷從道印

參議 井上馨印

參議 山田顯義印

參議 松方正義印

參議 川村純義印

アジア歴史資料センター

明治十七年八月廿九日

大臣三條

宮内省上申學習院職制章程創定之事參事院勘査進呈ス

内閣書記官 室井 谷森 田中

依テ回議ニ供ス

參議

| | | |
|---|---|---|
| 山縣 | | |
| 西郷 | | |
| 井上 | 山田 | |
| 松方 | | |
| 川村 | 福岡 | |
| 佐々木 | | |

參議 福岡孝弟 印

參議 佐々木高行 印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年八月廿九日

第二局印

別紙宮内有上申學習院職制章程創定ノ件參事院意見ノ通
御施行相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
JAPAN CENTER FOR ASIAN HISTORICAL RECORDS
http://www.jacar.go.jp

甲第二七五號

別紙宮内省上申學習院職制章程創定ノ件審査スル處左ノ如シ

宮内省所轄學習院職制別紙修正案ノ通定メラ御達相成可然ト認定ス

右ニ由リ一般ノ御達并宮内省ノ御達案左ノ通ニテ可然哉上申候也

達案

別紙修正案ノ通

宮内省ノ達案

宮内省

其省所轄學習院職制及ヒ職員名稱等級俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

アジア歴史資料センター

明治十七年九月三日　太政大臣

學習院職制
修正案ノ通

明治十七年八月廿八日　參事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

第七拾三号

宮内有所轄學習院職制及ヒ職員名稱等級俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十七年九月三日　太政大臣

學習院職制

長

宮内卿ノ命ヲ受ケ學習院ノ事務ヲ總理シ職員ヲ指揮シ勤惰ヲ監督ス

副長

長ノ職掌ヲ輔ケ長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

幹事

長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス

アジア歴史資料センター

教授
學生ノ教授ヲ掌ル
幹事補
職掌幹事ニ同シ
教授補
職掌教授ニ同シ
寮監
學生ノ品行勤惰ヲ監督ス
助教
教授ノ職掌ヲ助ク
書記
各庶務ニ從事ス

| | | |
|---|---|---|
| 長 | 勅任 | |
| 副長 | 奏任 | |
| 幹事 | 奏任 | 月俸 四十円 百五十マテ |
| 教授 | 奏任 | |
| 幹事補 | 準奏任 | |
| 教授補 | 準奏任 | |
| 寮監 | 準奏任 | 月俸 三十円 六十円マテ |
| 助教 | 判任 | 月俸 十五円 五十円マテ |
| 書記 | 判任 | 月俸 十二円 二十円マテ |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

宮内省
庶務課

第二一八二号

學習院職制章程之義上申

本有所轄學習院職制章程別紙之通被相定至急御達相成度
御達案相添此段上申候也

明治十七年八月廿三日　宮内卿伊藤博文

太政大臣三條實美殿



アジア歴史資料センター
Japan Centre for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

御達案

第卿　官省院府縣

宮内有所轄學習院職制章程左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十七年八月　日　太政大臣

職制

長　勅任　一人

副長　奏任　一人

幹事　奏任　一人

教授　奏任

和漢洋諸學科教員ヲ備フ

幹事補　奏任ニ準ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

教授補　奏任ニ準ス　一人

醫員　奏任ニ準ス　二人

寮監　奏任ニ準ス

時宜ニ依リ幹事幹事補ヨリ兼任スルコトアルヘシ

助教　判任

書記　筆生　判任

校業師

定期雇ヲ以テ教員ノ不足ヲ補フ者及擊劍馬術體操等ノ技藝ヲ教フル者

教師　等級男師ニ準ス

章程

第一條　長ハ本院ノ事ヲ總理シ院中大小ノ官員ヲ指揮監督ス

第二條　長ハ生徒ノ校則ヲ犯シ命令ニ違フ者ヲ懲戒スルヲ得

第三條　次長ハ長ヲ輔ケ長不在ノ時ハ其職務ヲ代理ス

第四條　幹事ハ長ノ指揮ヲ受ケ院中ノ事ヲ幹理ス

第五條　幹事ハ幹事補ト共ニ教務生徒會計庶務ノ四課ニ分任スト雖モ長ノ命ニ由リ互ニ職務ヲ相通スルヿアルヘシ

第六條　幹事ハ教授寮監ノ報告ヲ受ケ總表ヲ調製シテ之ヲ上報シ毎月末ニ於テ長會議ヲ開クトキハ出席シテ院務ノ得失ヲ商議ス

第七條　教授ハ教則ノ定ムル所ニ從ヒ各自擔任スル所ノ學科ヲ生徒ニ教授ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八條　教授ハ毎週生徒ノ學力及ヒ勤惰ヲ記シテ考課表ヲ製シ幹事ヲ經テ長ニ報申シ毎月末ハ會議ニ於テ生徒ノ狀況ト學科上得失ノ意見ヲ陳述スヘシ

第九條　教授ハ生徒ノ品行勉學ヲ督責スルコト得生徒若シ教場ニ在テ規則ヲ犯シ或ハ其訓令ニ違フコトアレハ之ヲ譴責シ或ハ教場ヲ退カシムルコトヲ得但シ授業ヲ終リタル後直ニ幹事ニ報知スヘシ

第十條　幹事補ハ職務幹事ニ同シ

第十一條　教授補及助教ハ職務教授ニ同シ

第十二條　醫員ハ生徒ノ衛生上ノ事ニ任シ院則ニ照シテ治療檢體ヲ掌リ疾病者ノ診斷書ヲ付ス

第十三條　療監ハ生徒ノ品行勤惰衛生ノ取締ヲ為シ生徒ニ親接シテ提誨規諭シ生徒寮ニ逓番寢宿シ生徒ノ外出闊課届等ヲ取扱ヒ實況ヲ具ヘ幹事ヲ經テ長ニ報申ス

明治十七年八月廿七日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 金井 谷森

内務大藏兩省連署上申宮崎縣漁業稅賦課ノ事參事院勘査進呈ス依テ回議ニ供ス

參議 大木 伊藤 井上 松方 佐々木 山縣 西郷 山田 福岡

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治十七年八月廿七日

第二局印

別紙内務大藏兩省上申宮嵜縣漁業税賦課ノ件ハ參事院意ノ通御指令相成可然哉

仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲第二六八號

別紙内務大藏兩省上申宮寄縣漁業税賦課ノ件審査スル處左ノ如シ

按スルニ漁業税賦課ノ儀上申ノ趣不都合無之ニ付御允裁相成可然ト認定ス

右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令案

上申ノ趣聞届候事

明治十七年九月十日

明治十七年八月十六日　参事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條実美殿

アジア歴史資料センター

受乾第八二八號

宮崎縣申牒漁業稅賦課ノ義ニ付

上申

漁業稅賦課ノ義ニ付宮崎縣令田邉輝実ヨリ別紙写ノ通縣會ノ決議ヲ以テ伺出候付調査候處不都合ノ廉無之ト存候間御裁可相成度此段上申候也

明治十七年八月五日

大藏卿山縣有朋

内務卿山縣有明

太政大臣三條実美殿

アジア歴史資料センター

漁業税賦課ノ義ニ付伺

明治十七年度地方税中漁業税課額別紙ノ通本年三月縣會ニ於テ議決ニ付決議ノ通履行致度則明治十三年第十七號布告第二条未項ノ但書ニ基キ此段相伺候也

明治十七年七月八日

宮崎縣令田邊輝実印

内務卿山縣有朋殿

大蔵卿松方正義殿

アジア歴史資料センター

漁業

## 網築漁ノ類

一等 一ヶ年上リ組合ハ其配當 金高千四百以上年税金貳拾五円

二等 仝 千貳百円以上仝 貳拾貳円

三等 仝 千円以上 仝 拾九円

四等 仝 八百円以上 仝 拾六円

五等 仝 六百円以上 仝 拾三円

六等 仝 四百円以上 仝 拾 円

七等 仝 貳百円以上 仝 七 円

八等 仝 百円 以上 仝 四 円

九等 仝 百円未満 仝 三 円

釣漁 鮫掛 唐壺漬 鳥賊引釣取 之類

一等 一ヶ年上リ組合ハ其配当 金高貳千円以上年税金拾八円

二等金　千五百円以上金　拾六円
三等金　千貳百円以上金　拾三円
四等金　九百円以上金　拾壱円
五等金　七百円以上金　八円
六等金　六百円以上金　七円
七等金　五百円以上金　六円
八等金　四百円以上金　五円
九等金　三百円以上金　三円五拾銭
十等金　貳百円以上金　貳円五拾銭
十一等金　百円以上金　壱円貳拾銭
十二等金　百円未満金　六拾銭



明治十七年九月廿日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 金井 河野

内務省伺兵庫縣會議決不認可ニ付事務
事院審査進呈ス依テ閣議ニ供ス

参議

| | |
|---|---|
| 大木 | 大山縣 |
| 井上 | 西郷 |
| 松方 | 山田 |
| 川村 | 福岡 |
| 佐尔 | |

アジア歴史資料センター

明治十七年九月五日

第二局印

別紙内務省伺兵庫縣ヶ會議吹不認可
ノ件ハ、奏事院ニ見ヲ通御指令相成
可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Centre for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲第二八四號

別紙内務省伺兵庫縣々會議決不認可ノ件審査スル處左ノ如シ

按スルニ凡ソ地方税ノ收支ハ地方税規則第五條第二項ノ場合ヲ除クノ外隊員議按ヲ發シ府縣會若クハ常置委員ノ議定ヲ經テ施行スヘキモノニ有之候ヘハ既ニ之ヲ支出シテ後ニ其實費ヲ隊員中ニ編入シ縣會ノ議定ニ付シタルカ如キハ寔ニ不都合ノ儀ニ候ヘトモ内務省上申ノ如ク事既往ニ屬シ今更釐正セシム可ラサルノ情實モ有之且ツ其費途ハ地方税ヲ以テ支弁スヘキ當然ノモノニ候ヘハ同御伺ノ通既ニ支出セシモノハ十七年度ノ地租

剰ニ保ちし儀被し其未タ支出セサルモノハ十七年度ニ繰續シ同年度ノ經費ヲ以テ支辯セシメラレ可然ト認定ス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令案

同ノ通指揮致スヘキ事

明治十七年九月六日

明治十七年九月十日　參事院議長福岡孝弟

太政大臣三條實美殿

參照

地方税規則十三年第十六号布告

第五條　非常ノ費用ハ傷害ニ在ツテハ得サル天災暫変ノ費用縣費ヲ以テ給足セサルモノヲ云別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ内務卿及大藏卿ヘ報告スヘシ

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徴收スルコトヲ得

府縣會規則十三年第十五号布告

第三十七條　常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨ

り諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徴收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

兵庶甲第二八四号

縣會議決不認可上申ノ儀ニ付伺

縣會議決不認可ノ儀ニ付兵庫縣令代理大書記官篠原五郎ヨリ別紙寫之通リ其狀有之稽査スルニ凡ソ地方税ノ收支ハ規則上縣會ノ議定ノ經テ施行スヘキモノニ有之候處無其議漫ニ之ヲ支出シ而ノ其實費ヲ豫算中ニ編入シ以テ之ヲ縣會ニ付シ候ハ其處理甚不都合ト認ノ候然レトモ其費途ハ元来地方税當然ノ支辨ニ屬スヘキモノニシテ且其事タル決行ノ后ニ係リ今更之ヲ釐正セシムヘカラサル儀ニ付右豫算中既ニ支出シタル金額ハ該縣中左ノ通リ十七年

度ノ地租割ニ併セテ徴收セシノ而ノ其未タ支出セサルモノニ至テハ業已ニ其年度ヲ経過シ以テ十七年度経済ノ期内ニ入リ候上ハ猶ホ今日ニ於テ十六年度経費豫算ノ名義ヲ以テ之ヲ徴收支出スハ事實不都合ノ次第ニ付右ニ係ル事項ハ即チ之ヲ十七年度ニ於テ繰越シ同年度ノ経費ヲ以テ支辨候様可及指揮ト存候得共右ハ是迄更ニ類例無之事件ニ付一應相伺候條至急御指揮有之度候也

明治十七年八月廿五日　内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿

追テ本文取理不都合ノ儀ハ縣令職務上ノ不注意ト相認候間右代理書記官ヨリ夕分進退其筋ヘ可伺出様可相達ト存候間以段流申仕候也

縣會議決不認可之儀上申

客年十一月以降本縣監獄本分署内ニ発生シタル一種傳染病則チ発疹窒扶斯ノ流行ト囚徒ノ増員ニヨリ十六年度監獄費并衛生費ニ非常ノ不足ヲ告ケシヲ以テ本年六月廿三日ヨリ臨時縣會ヲ開キ右両費増額議按ヲ發付セシニ議會ハ之ヲ議定スヘキモノニ非スト議決開申セリ抑獄ノ監獄費ニ在ツテハ既ニ本年二月臨時縣會ニ於テ之カ為メ金貳万五千円ヲ増額セシモ終ニ以ノ増額ハ勿論豫備費モ結足セサル場合ニ立至リ茲ニ再ヒ議按ヲ發付セシモノニテ衛生費モ亦以ノ流行病ノ為メ傳染病豫防費ニ不足ヲ生セシモノニシテ何レモ止ムヲヤノ費途ヨリ依テ之ヲ再議セシメシト欲セシモ最早廿九日ニテ會期正ニ滿チ時間モ午後六時ニ及ヒ其遑ナキ場合ニ付追テ何分可相達旨申達閉會セリ而

レテ會議中地方税規則第五条第一項ノ見解ニ付奏事院ヘ
質議セシ処同院章程御改正ニ際シ同廿九日ニ至リ御指令
リ御指令ノ次第モ有之候ヘトモ右ハ閉會後到達セシノシ
ナラス右質議ハ急速ノ際電信ニテ詳悉ヲ得ス事実徹底セ
スト相認候ニ付更ニ別紙第一号ニ其状シ總テ原按ノ通執
行ノ儀御指揮ヲ仰候也

兵庫縣令代岡昌純代理

明治十七年八月廿二日　兵庫縣大書記官篠崎立郎印

内務卿山縣有朋殿

縣會議決不認可原案ノ通施行ヲ請フ理由

當度臨時縣會ニ発付セシ衛生費並ニ監獄費増額議案ハ客
年十一月以降監獄本署及ヒ各地分署内ニ於テ発生シタル一
種傳染病即チ発疹室扶斯ノ驅逐豫防ト囚徒ノ増員ニ係ル
費途ニシテ其監獄費ニ在テハ既ニ本年二月臨時縣會ヲ開
キ金貳萬五千圓ノ増額ヲ議定セシヲシモ爾来病勢意蔓延
シ看守押丁醫員等ニ傳染シ延テ一般人民ニ傳播セシヲ以
テ殊ニ之カ豫防撲滅方ニ從事セリ依テ別紙第一号ノ通衛
生費監獄費共巨額ノ不足ヲ見ルニ至ル而シテ民間ハ頻年
ノ水旱災等ニテ困難ノ際再三之ヲ徵收スル容易ナラサル
ヲ以テ之カ實況ヲ具シ具流行病ニ係ル豫算金壱萬六千円
ヲ特ニ國庫ヨリ支出セラレンヿヲ上請セシニ四月十七日ニ
至リ金三千七百五拾九圓ヲ補助セラレ旨御指令ヲ得テ

一タヒ愁眉ヲ開キシモ尚其不足ハ重テ地方税ニ徴スルノ外ナシ然ニ當時議員改撰ノ際ニシテ右議員撰定ノ上ハ第二号ノ通常置委員等改撰ノ為六月初ニ方リ縣會ヲ開クノ豫定アルニヨリ以時ヲ以テ併諭セレメントシ専ラ豫算調理中第十三号公布ヲ以テ地方税規則中戸長以下給料ノ項ヲ改正セラルヽニ際ス是地方經濟ノ一大変革ニシテ最ニ議決ヲ認可シタル該費豫算ニ関係ヲ生スル少ナカラス依テ之ヲモ併セテ議定セレメントシ更ニ第三号ノ通延期シ六月廿三日ヲ以テ開會右三件議案ヲ発付セリ是開會及本案発付ノ順序ナリ

抑以十六年度備支費並ニ監獄費ハ地方税規則第五條第一項ニヨリ発付シタルニ議會ハ第四号ノ通本案増額ハ其名豫算ニシテ其實殆ト報告或ハ補充議案ニ似タルノ跡アリテ

純然タル豫算議案ニアラス本案中尚全ク拂濟ニ至ラサル モノアリトスルモ本會ハ以ノ如キ議案ヲ議スヘキモノニ アラスト議決シタルハ甚不當ト云ハサルヲ得ス今其不當ヲ陳辯セントスルニ先テ左ノ三項ヲ詳究セサルヲ得ス

第一　本案ハ地方税現則第五条第一項ニ適スルヤ否

第二　本按増額ハ豫算ナルヤ否

第三　本按ハ常置委員會ニ付スヘキモノナルヤ否

右逐次之ヲ論辯セン第一傳染病豫防ノ如キ毎年其準備無カルヘカラスト雖モ今回監獄四使ノ傳染病ノ如キハ甚敷最稱獄官吏醫員等モ傳染シ尚延テ一般人民ニ傳播セシ等回ヨリ非常ニシテ既ニ補助金御下付ノ特例ヲ蒙リシヲ以テモ真非常タル知ルヘキナリ且ツ四使人員ノ大ニ増加セルヤ又時変ニ原因スルモノニシテ両項共非常ノ實用スルモ

明ナリ論者或ハ云ハン本費ハ既ニ豫算アリ而シテ其不足ニ係ルモノナレハ地方税規則第五条第一項ニヨリ豫算ヲ議セシムヘキモノニ非ス該條第二項ニヨリ補充費ヲ徴收スヘシト是決シテ然ラス該二項ノ文ニ曰前年度經費決算ノ場合ニオイテ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徴收スルヲ得トアリテ年度尾則前年度經費決算ノ場合ニ方リ適用スヘキモノニテ今本費ノ如キハ否ラス天災時変ニ原因シタル非常ノ費用ニシテ其年度内ニオイテ前議決豫算額ハ勿論為ニ豫備費モ結足セサル場合ナルヲ以テ該條第一項ヲ適用スヘキハ更ニ疑ヲ容レサル所ナリ第二凡ソ事業ノ一ヶ年度以上ノ時限ヲ以テ結局スルモノニシテ經費ハ一ヶ年度ニ満ニシテ不足ヲ生シ其不足タル非常ノ事ニ原因スレハ即チ非常ノ費途ニシテ本件ノ如キ若クハ洪水難破船等ノ如キ其類一二ニ止ラサルヘシ而シテ其費途タル或ハ緩ナルモノアリ或ハ急ナルモノアリ其至急ナルモノニ至テハ常置委員ノ議決ヲ待ス一面ハ事件ニ着手シ一面ハ之ヲ議決セシメ又緩ナルモノハ少数ノ常置委員會ニ付セス本則ナル臨時會ニ議決セシムル如キ其方面ニ當ル地方官時宜緩急ヲ商量シテ措辣スルハ行政職權内ノ事ニシテ多少着手若クハ消費セシモノヲモ加ヘ豫算トナス素ヨリ妨ナシ若シ之ヲ豫算ト云ハスンハ將タ如何之ヲ指称セン畢竟豫算ナルモノハ其精神主旨ハ議會ニ於テ存廃増減ヲ自由ニ議決スルヲ得ルニアリ苟モ自由ニ議決スルヲ得ルニオイテハ毫モ議權ニ関係ナリ法律ニ適シタルモノニテ之ヲ豫算ト云ヘキナリ第三若果中監獄費ハ

既ニ本年二月之カ増額ヲ議定セシモ漸次病弊愈積獄囚徒
愈増員シ竟ニ前議決豫算ノ結局シ能ハサル場合ニ至レル
モノニシテ漸次ノ支辻ニ供スルモノナリ又衛生費モ之ニ
追随スルモノナレハ臨時急施ヲ要スル場合ニ非ルヤ明ニ
レテ之ヲ府縣官規則第三十七條末段ニヨリ常置委員會ノ
議決ニ付セサリシハ一ニ法律ノ明文ヲ遵守シタルモノナ
リ假ニ法律ハ之ヲ許ストスルモ常置委員會ハ取モ直サス
縣會ノ代理者ナレハ已ニ常置委員等ハ改撰ノ為ヲ臨時縣
會ヲ開クノ期ハ豫定シテ目前ニ在ルニ仍ホ之ヲ常置委員
會ニ付スルハ甚タ当ナラス況ヤ臨時急施ヲ要スル場合ニ
非サルニ於テヲヤ且ツ之ヲ實際ヨリ論スルモ最ニ縣會ニ
於テ増額ヲ議定セシメ今又巨額ノ増額ヲ議定セシムルニ
方リ常置委員會ニ付セス本則タル縣會ニ付シタルハ法律

上ヨリ論スルモ實際上ヨリ見ルモ共ニ至当ノ處分ト信ス
故ニ上陳辯セル如ク本案増額ハ地方税規則第五条第一項ニ
所謂非常ノ費用ニシテ之ヲ府會ニ付シタル理由ハ既ニ詳
悉セリ依テ是ヨリ其議決ノ不当ヲ論述セン夫レ議決ノ要
旨タル純然タル豫算議案ニ非ルヲ以テ如此議案ハ議定ス
ヘキモノニ非スト云ニ在リ仮令非常ノ費用タルモ縣令ハ
縣會ノ議決ヲ經サレハ毫モ支出スルヲ得スト見解スル
モノヽ如シ其通常費用ハ固ヨリ勿論非常ノ費用ニ至
リテハ天災時変ニ原因スルモノナレハ其議決以前幾多ノ
實費等アルハ理ノ当然ニ然ルヘキ所ニシテ行政職權内ノ
事ニ屬スル蓋シ豫算法ノ精神主旨タル之カ存廃増減ヲ自由
ニ議決シ得ルニアリテ是議會ノ權限ニ屬スル故ニ之ヲ自由
ニ議決スルヲ得ル（彼ノ補充費ノ如ク単ニ賦課法ノミヲ議スルニ止ラス）以上ハ法律上之

ヲ豫算トスヘシ或ハ云フ既ニ着手若クハ消費セシモノヲ
加ヘテ豫算トナサハ議會ニ於テ痛減若クハ全廃スルモ縣
令ハ必ス人民業ノ通執行スヘキニヨリ議權ヲ横害セシモノ
ナリト雖ト此ノ如キ理アランヤ何則不認可ノ權ハ縣令ニ
アラスシテ内務卿ニアリ故ニ縣令ハ議決認可シガタキ事
由ヲ縣會議決ノ状トヲ具申シ内務卿ノ指揮ヲ請フニヨリ
非常ノ費用ニ至テハ内務卿ハ其豫算中實費ノ有無ニ関係
ナク之ヲ費途ノ適否ニヨリ指揮セラルヽモノト信スルヲ
以テ[illegible]之ヲ施行スルノ見解ハ實ニ贅疣ニ属ス又或
ハ云内務卿ハ縣令ノ處置ヲ不当トシテ允可セサラントス
ルモ其消費セシ金員ヲ如何セント是亦然ラス内務卿允可
アラハ地方税ニ属シ允可セサレハ必ス縣令ハ責罰ヲ
蒙リ其消費金員ノ如キハ法律上明文ナキモ特別ノ處分ア

ルハ必然ナリ實其償却方法ヲ顧慮シ之ヲ當否ヲ顛倒セラ
ルヽ如キノ遺慮ヲ要センヤ抑地方税規則第五条第一項ハ
府縣會規則第一条同第三十七条及本条第二項ヲ以テ處分
シ難キ非常ノ場合ヲ處置スルノ方法（非常云ヘハ註文ニ殺ルモノヲ皆スト）
制限外賦課スルヲ得ルノ旨趣トヲ以テ組織シタル憲通ノ
法ナルヘシ然ルニ若シ府縣會規則第一条同第三十七条及
本条第二項ニ該ルモノハ好ハ議セストセハ則本条第一項
ヲ何ノ地ニ置ントスルヤ是故ニ縣會ハ徒ニ法律ノ區域ヲ
狹搾シ且行政官ノ職權ヲ議會ノ權限ヲ區別セスシテ必議
決ヲナシタルハ實ニ誤見ニ属スルモノニシテ本件ハ天災時
変ニ原因シ豫備費モ既ニ盡キタル場合ニ際スル非常ノ費
用ニシテ其年度内ニテ未タ決算ニ至ラサルモノナレハ地
方税規則第五条第一項ニヨリ議スヘキモノタルハ自ラ明

カナリ

右ノ理由ナルヲ以テ府縣會規則第五條ニヨリ原案ノ通施行ヲ請フ所以ナリ



明治十七年八月廿七日

大臣 三條有栖川

内閣書記官 金井右藤

文部省伺兵事ニ関スル学校管理方ノ事務事院勘査進呈ス依テ閣議ニ供ス

参議

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大木 | 伊藤 | 井上 | 松方 | 川村 | 佐々木 |
| 山縣 | 西郷 | 山田 | | 福岡 | |

アジア歴史資料センター

明治十七年八月廿七日

第二局印

別紙文部省伺兵事ニ関スル学校管理方ノ件ハ参事院意見ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター

甲第二五八号

別紙文部省伺兵事ニ関スル学校管理方ノ件審査スル処左ノ如シ

本件ノ趣旨ハ兵事専門学校ノ管理方ヲ伺フニアリ按スルニ兵事ハ政府特有ノ権内ニアルモノニ付該学校ノ如キハ普通教育ノ部内ニアルヘキモノニアラス故ニ教育令所掲ノ学校中ニハ素ヨリ包含セサル儀ト認定ス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令案

伺ノ趣兵事講習専門ノ学校ハ教育令所掲ノ学校中ニ包含セサル儀ト可相心得事

但豫備科ヲ援クル学校ノ儀ハ伺ノ通

明治十七年九月八日

アジア歴史資料センター

明治十七年八月十三日　　參事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

參照

徴兵令

第十二條　現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立学校ヲ辯ル者ハ歩兵操練科卒業証書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ帰休ヲ命スルコトアル可シ

教育令

第一條　全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攬ス故ニ学校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條　学校ハ小学校中学校大学校師範学校專門学校農学校商業学校職工学校其他各種ノ学校トス

アジア歴史資料センター

第四百四十五号

兵事ニ関スル學校管理方之儀ニ付伺

專ラ兵事ヲ講習スル學校ノ儀ハ教育令所掲ノ學校中ニ包括候儀ニ候哉若シ果シテ然ラハ該学校ノ如キハ自ラ一般学校ト異ナル関係モ有之且既ニ官立ノ学校モ有之候ニ付私立公立トモ其設置ヲ許可不致候テ可然哉尤官立兵学校ニ入ルニ要スル豫備科ヲ授クルノ学校ハ公私立ト雖調査ノ上其設置ヲ許シ各種学校ノ内ニ於テ取扱可然ト存候此段相伺候也

明治十七年七月十五日　文部卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

明治十七年九月五日

大臣三條 有栖川

内閣書記官 金井 田中

内務大藏兩省伺福岡縣漁業稅則中改正ノ事參事院審査進呈ス依テ閣議ニ供ス

參議 大木 伊藤 井上 松方 川村 佐々木 山縣 西郷 山田 福岡

アジア歴史資料センター
Japan Centre for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年九月五日

第二号印

別紙内務大藏兩省伺福岡縣漁業税則中改正ノ件參事院意見ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター

甲第二八二號

別紙内務大藏兩省伺福岡縣漁業税則中改正ノ件

審査スル處左ノ如シ

福岡縣漁業税則中改正ノ儀縣會決議ノ上伺出ノ處不都合ノ廉無之ニ付御裁可相成可然ト認定ス

右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令按

伺ノ趣聞届候事

明治十七年九月九日

明治十七年八月三十日　參事院議長福岡孝弟印

アジア歴史資料センター

太政大臣三條実美殿

福庶甲第一八六號

漁業税則中改正ノ儀稟申

漁業税則中改正ノ儀ニ付別紙ノ通福岡縣令ヨリ伺出候處不都合之儀無之ト存候間御裁可相成度此段稟申候也

大藏卿山縣有朋

明治十七年八月十八日

内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター

會第五百五十六號

漁業稅則中改正ノ義伺

本縣漁業稅則中福岡區伊等ヲ福岡ト別紙朱書ノ通改正シ十七年度ヨリ施行致度縣會ノ決議ヲ取リ及上申候条至急何分ノ御指揮有之度候也

明治十七年七月廿六日　福岡縣令岸良俊介

内務卿山縣有明殿

大藏卿山縣有朋殿

| 地名 ＼ 等級 | 福岡區 | |
|---|---|---|
| | 伊福崎 | 博多 |
| 一等 一箇ニ付年税金六円 | | |
| 二等 一箇ニ付年税金四円五拾錢 | | |
| 三等 一箇ニ付年税金三円 | 地曳網 | 地曳網 |
| 四等 一箇ニ付年税金貳円 | | |
| 五等 一箇ニ付年税金壱円五拾錢 | | |
| 六等 一箇ニ付年税金壱円 | 鯛瀬縄 | 手繰網 繰網 底網 |
| 七等 一箇ニ付年税金六拾錢 | | |
| 八等 一箇ニ付年税金三拾錢 | 鮹縄 | 鮹縄 |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内務省上申中央衛生會職制中改正之事

右謹テ奏ス

明治十七年九月九日

太政大臣三條實美印

左大臣熾仁親王印

參議大木喬任印

參議山縣有朋印

參議伊藤博文印

參議西郷從道印

參議井上馨印

參議山田顯義印

參議松方正義印

聞

明治十七年八月廿七日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 金井 谷森

内務省上申中央衛生會職制中改正之事參事院勘査

進呈ス依テ問議ニ供ス

參議 大木 伊藤 井上 松方 川村 佐木

山縣 西郷 山田 福岡

參議 川村純義 印

參議 福岡孝弟 印

參議 佐木高行 印

アジア歴史資料センター
http://www.jacar.go.jp

明治十七年八月廿七日

第二局印

別紙内務省上申中中央衛生會職制中改正ノ件ハ參事院意見ノ通御達相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
http://www.jacar.go.jp

甲第二六三号

別紙内務有上申中中央衛生會職制中改正ノ件審査スル処左ノ如シ

按スルニ中央衛生會ノ儀ハ明治十二年ノ設立ニ係リ爾来衛生上ニ補益アルハ言ヲ俟タサレトモ如何セン會員ノ寡少ナルト其組織ノ未タ宜ヲ得サルトニ因リ充分ノ目的ヲ達シ難スルニ付先ツ會員ノ組織ヲ改正セントスルハ衛生事務擴張上適當ノ稟議ト認候付呈案ノ通達相成可然ト認定ス

右ニ由リ御達案左ノ通ニテ可然哉上申候也

御達案

内務省呈按ノ通

明治十七年九月十一日

アジア歴史資料センター

明治十七年八月十三日

参事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

中央衛生會職制中改正之儀ニ付上申

當有管理中央衛生會之儀ハ明治十二年ノ設立ニ係リ爾来衛生事務施設ノ為ヲ補益スル所鮮少ナラス候得共只會員ノ寡少ナルト其組織未タ宜キヲ得サルトニ因リ充分ノ目的相達兼候儀ニ有之殊ニ方今衛生事務擴張ニ際シ緊急ノ議件不少候間此際委員ノ組織聊カ御改正相成候樣致度別紙御達按相添此段上申候也

明治十七年七月廿一日

内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿



アジア歴史資料センター

御達按

第七拾五号　官有院廳府縣

明治十二年甲第五拾四號達中央衛生會職制第一項左ノ通改正候條此旨相達候事

明治七年九月十一日　太政大臣

一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

會長　一人

副會長　一人

委員

醫員　十人

化學家　三人

工學家　三人

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

衛生局長
警保局長
土木局長
参事院議官若クハ議官補　二人
警視總監
東京府知事　三人
内務書記官
臨時委員　無定員

参照

十三年十二月太政官第五十四号達
中央衛生會職制

一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

會長　一名
副會長　一名
委員
医員　十一名
貨学家　二名
衛生局長　二名
内務書記官　一名
警保局長
以上十八名ヲ以テ定員トス

十三年四月第七号達ニ改ム

警察官吏ノ名トアルハ警保局長ト改ム
明治九年第三号達ニ改ム

中央衛生會職制改正之儀ニ付七月廿一日附ヲ以テ内務卿ヨリ上申差出相成候右ハ目下清國諸港ニ於テ命列刺病流行ニ付檢疫傳染規則實施方準備オノ為ノ該會委員組織改正之義最モ必要ニ有之焦眉之急ニ相臨居候間上申之趣至急御裁可相成候樣特別之御取扱有之度此段及御依頼候也

明治十七年九月四日　　内務書記官

内閣書記官

御中

明治十七年九月十二日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 金井 谷森 田中

外務有上申佛領交趾萬國電信條約一加盟之事

右回覽ニ供ス

参議

| 大木 | 山縣 |
|---|---|
| 井上 | 西郷 |
| 松方 | 山田 |
| 佐々木 | 福岡 |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年九月十一日

第一局印

別紙外務省上申佛領交趾萬國電信條約一加盟一件參事院
勘査濟供高覽候也

アジア歴史資料センター

甲第二八七號

別紙外務省上申佛領交趾萬國電信條約一加盟ノ件供高覽候也

明治十七年九月六日

参事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター

公第四六号

今般佛領交趾國萬國電信條約ニ加盟之儀並ニ其音信料等之儀ニ付本邦駐紮英國公使代ヨリ別紙英文寫之通リ申越候間譯文相添此段上申候也

明治十七年八月廿三日

外務卿伯爵井上馨印

太政大臣公爵三條實美殿

追而本件ハ工部省ヘモ及通牒置候



アジア歴史資料センター

第弐號文

以書翰致啓上候ハ英國電信條約第十八條ニ據レハ此條約ニ加入スルモノアレハ爾後ニ會議ヲ開キタル國ヨリ他ノ同盟各國ニ之ヲ通知スヘキ事ニ相成居ニ付右通知ニ義務ハ現今我英國ノ擔任スル所ニ候ヘハ千八百八十四年五月廿六日ヲ以テ佛領交趾ヲ英國電信條約ニ加入ニ義我國大統領ヲ以テ我國ニ中入有之ニ付此ニ我外務卿ノ列名ニ從ヒ其政府ニハ通知シ為メ茲ニ閣下迄申進ス

又佛領交趾ノ着信並ニ經過料ハ暹羅ノ外何ノ線ヲ經ルモ各國通信者ニ於テ十五「セント」ニ有之暹羅線ヲ經ル寸ハ着信並經過料ニ於テ三十五「セント」ニ有之候

交趾通貨ノ價額ヲ佛貨ト比較スレハ一「ピアストル」ハ四「フランク」ニ当ル ニ付一「フランク」ハ「ピアス

ストルル貨ノ二十二仙ニ相成候
交証ハ本条約第七十六条ニ照シ美國領事官ノ経費ヲ醵出
スル國々ノ等級ニ於テ第五ニ列シ可申条此段得貴意候敬
具

千八百八十四年八月十八日　ピー、ル、ポイル、トレシテ
（プラシケット氏不在ニ付）

外務卿伯爵井上馨閣下

横文ハ原書ニ付



明治十七年九月十三日

大臣（三條有栄川）　内閣書記官（田中　谷森　倉井）

内務省伺札幌根室両縣下布告布達
施行期限之事参事院勘査進呈ス依
テ回議ニ供ス

参議
大木印　伊藤　井上印　松方印　川村印　佐々木印
山縣印　西郷印　山田印　大山　福岡印

明治十七年九月十三日

第二局印

別紙内務省伺札幌根室両縣下布告布達施行期限ノ件ハ参事院意見ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲第二九一號

別紙内務省伺布告布達施行期限ノ件審査スル處左ノ如シ

按スルニ札幌根室両縣ノ儀ハ地勢氣候等他ノ府縣ト同一ナラサルニヨリ郵便局モ未タ遍ネカラサルノミナラス、烈風積雪ノ為メ郵便物ノ阻滞セン者少カラス殊ニ島地ノ儀ハ孰レモ郡役所ヨリ海路十四里隔絶シ且怒涛ノ為メ年中渡航シ得ルハ誠ニ僅少之事ニシテ布告布達ヲ期限通リ人民ニ周知セシムルハ實際為シ能ハサル義ニ付追テ道路郵便等遍ク開ケ通スル迄ノ間ハ内務省上申ノ如ク右両縣ニ限リ特別ノ御議ヲ以テ島嶼ノ外ハ郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ

又島地ノ義ハ戸長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算
セシノラレ可然ト認定ス
右ニ由リ指令按并司法省ヘ達按左ノ通ニテ可然
哉上申候也

指令按

伺ノ趣特別ヲ以テ當分ノ内聞届候事
明治十七年九月廿五日 出

司法省ヘ達按

別紙内務省伺布告布達施行期限ノ件朱書
ノ通指令ニ及ヒ候條為心得此旨相達候事
今日 出

明治十七年九月十一日 参事院議長 福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター

参照

十六年第十七號布告

第一條　布告布達ハ各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但到達日數ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

天災時變ニ因リ到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

函館縣沖縄縣札幌縣根室縣ハ到達日數ヲ定メス現ニ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

凡ソ島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算ス

参照

内務省伺十六年十月四日

布告布達施行期限ノ件

本年第十七號公布ヲ以テ布告布達ノ施行期限
被相定北海道三縣ノ儀ハ縣廳ヘ到達日數ヲ定
メス現ニ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ七日間ニ
於テ施行スヘキノ處根室縣ノ儀ハ船便ニ依リ
布告類一時ニ到達印刷物輻湊スルヤハ七日間
ニ印刷配布ノ手續ヲ了シ難キ趣ヲ以テ別紙写
第一号ノ通該縣令ヨリ伺出候付第ト取調候處
安田參事第二号ノ通函館ヨリ該縣迄ハ海陸トモ實
際不得已事由ニヨリ自然前顕ノ差支ヲ生スル
モノニ付申出ノ通聞届可然哉此段相伺候条至

急何分ノ御指揮有之度候也

指令十六年十一月六日

伺ノ趣難聞届候事

根室甲第四二號

布告布達施行期限ノ義ニ付伺

十六年第十七號布告ヲ以テ布告布達施行規則定メラレ函館縣沖縄縣札幌縣根室縣ハ到達日數ヲ定メス現ニ縣廳ニ到達ノ翌日ヨリ起算スヘキ筈ニハ候得共他府縣ト同ク七日間ニハ人民周知セサル可ラス然ルニ北海道ノ儀ハ道路險難郵便未タ遍ネカラス信書往復ニ許多ノ時日ヲ費シ殊ニ春冬ノ候ハ海路烈風怒濤陸路ハ積雪流澌ノタメ往来相絶ヘ郵便ノ阻滞甚シク就テハ布告布達縣廳到達ノ翌日ヨリ七日以内人民ヲシテ審ク熟知セシムルハ到底為シ得ヘカラサル儀ニ付追テ道路相開ケ郵便通ノ通スル迄ノ間当分各管下郡役

所ヘ到達ノ翌日ヨリ七日目ヲ以施行ノ期限ト定
メラレ度且又島地ノ儀ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌
日ヨリ起算スヘキ法規ニ候處札幌縣下増毛郡役
所ヶ轄天塩國苫前郡焼尻村天壷村ノ両島及ヒ宗
谷郡役所ヶ轄北見國利尻郡礼文郡ノ両島并ニ根
室縣下國後郡ニ限リ其戸長役所ヘ到達ノ翌日ヨ
リ七日目ヲ以テ施行ノ期限ト定メラレ度別紙写
ノ通札幌根室両縣協議ノ上連署ヲ以テ伺出候付
篤ト勘考候處布告布達施行期限假令北海道ト云
ヘトモ全ク島地ニシテ不得止モノ、外御聽許不
相成筋トハ存候得共然レトモ両縣中立ノ如ク該地
ノ儀ハ開拓日猶浅ク概ネ創業ニ属シ且地勢象候
ノ差別其他百般ノ事件殊ニ他府縣ト同視シカタ
ク実ニ再三ノ申立ニ付右両縣ニ限リ特別ヲ以申
立ノ如ク御聽許相成候様致度此段仰御裁可候也

明治十七年八月　　内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿

天第五十三號

布告布達施行期限之義ニ付伺

一布告布達施行期限ノ義昨明治十六年五月廿十七
号ヲ以テ制定相成其第一條第三項ニ函館縣沖
繩縣札幌縣根室縣ハ到達日ヨリ定メス現ニ縣廳
ニ到達シタル翌日ヨリ起算スト有之候處当道
三縣ノ義ハ曾テ屢々上申仕候通道路險難郵便
未タ遍ネカラス信書往復ニ許多ノ時日ヲ費シ
常ニ不便尠カラス殊ニ春冬ノ候ニ際スレハ海
岸ハ烈風怒潮山路ハ積雪流澌ノ為メ往来相絶
ヘ郵便ノ阻滯從テ甚シク既ニ布告布達ノ縣廳
ヘ到達セシヨリ之ヲ謄寫印刷シタルモノ及ヒ
縣廳ノ布達々告示等該廳ヨリ發シタルヨリ郡役所

ヘ到達ノ時日ハ概ネ逮キモノ三日遅キモノ十
余日又各郡役所ヲ發シテ部内戸長役場ヘ到達
ノ時日ハ二三日乃至六七日ヲ要スルノ實況ニ
有之假令ハ公布第一日ヲ以テ到達スルハ乃チ
印刷ニ付シ印刷ハ第二日目迄ニ刷行シ第三日
目ハ校合其他配付ノ負數等ヲ調ヘ之ヲ郵便局
ニ付ス然レハ此間已ニ三日ヲ費セリ而シテ縣
廳所在地ノ郵便局ハ之ヲ其翌日即チ四日目ヲ
以テ差立ルモ線路ニ大中小ノ差アリテ其大線
路ニ頼ルモノ途次中線ニ移リ中線ニ頼ルモノ
途次小線ニ轉スル場合ニ至リテハ一日若クハ
二三日間該分岐ノ局ニ留置カル、カ如キハ通
例ニシテ且夏時ト雖モ或ハ暴風怒潮大雨洪水
ノ為メ阻滞スルナキヲ保セス況ンヤ春冬風雪
ノ候ニ於テヲヤ且戸長役場所在地ニシテ未タ
郵便局ヲ設クルニ至ラサルヶ所有之故ニ其配
達區域ノ廣キ五里乃至十余里ニ亘ルモノアル
ヲ以テ郡役所ヨリ戸長役場ヘ戸長役場ヨリ部
内各村ニ向ヒ時々配付スルハ実際容易ノ業ニ
アラス此間施行期限経過候次第ニテ第十七號
公布ノ通縣廳到達ノ翌日ヨリ七日以内ニ人民
ヲシテ普ク熟知セシムルハ到[illegible]為シ得難ク然
ルヲ到達ノ翌日ヨリ起算候様ニテハ人民ノ不
幸難黙止候条追テ道路相開ケ郵便遍ネク通ス
ル迄ノ間当分各管下郡區役所ヘ到達ノ翌日ヨ
リ七日目ヲ以テ施行ノ期限ト被定候

一同條第四項ニ依ル二九ノ島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スヘキ法規ニ有之候處札幌縣下增毛郡役所ヨリ轄天塩國苫前郡焼尻村天壹拵兩島焼尻村ニ戸長役場ヲ置ク戸長ハ所轄郡役所ヨリ苫前村ヨリ十九里ヲ經テ十二里余海里及ヒ宗谷郡役所ヨリ轄北見國利尻郡礼文郡兩島兩郡トモ未タ郡役場ノ設置ニ至ラス故ニ各戸長役場モ亦所轄郡役所ヨリ利尻ヘ三一ケ月ヲ置ク十八里海里礼文ヘ四十六里海里有之而シテ該島ヘハ平時定期航海ノ船無之夏時靜浪順風ノ日僅カニ渡航シ得ルモ會々風浪アルニ方リテハ絶テ航通不相成殊ニ冬季即チ十一月ヨリ翌年三四月頃迄ハ全ク航通閉絶ノ為メ諸達書等ハ其海路開通ノ日ニ至リ一時ニ到達スル等畢竟地勢ト氣候ノ致ス所ニシテ他ノ郡村ト同視シ難キ場所ニ候間該島ニ限リ其戸長役場ヘ到達ノ翌日ヨリ七日目ヲ以テ施行ノ期限ト被定度

右ハ札幌縣現時ノ狀況ニシテ根室縣ハ本年三月十一日軍艦第壱大隊ヲ以テ地方運便ノ實況等繙述再申候通稍同一ノ樣ニシテ其施行期限ヲ異ニスルハ施政上好マシカラサル義ニ付特ニ到達ノ翌日ヨリ廿日ヲ以テ施行期限ト定メ度尋ノ再申ハ御取消更ニ兩縣共本文伺ニ通御聽許相成樣致度且ツ開拓日猶淺ク各管内中數郡已ノ除クノ外ハ概ネ皆創業ニ屬シ且地勢ノ別氣候ノ差其他百般ノ事他進府縣ト同一ナラス特別ノ御詮議ヲ仰キ来リ候義勘カラス候處此中本件ノ如キハ事情

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

巳ムヲ得サル義ニ候條達カニ御裁可相成候様致
度依テ札幌縣ヨリ各地ヲ距ル里程見取圖添此段
相伺候也

明治十七年

根室縣令湯地定基

札幌縣令調所廣文

内務卿山縣有朋殿

乾第貳拾六号

布告布達施行期限之義ニ付再申

本縣ノ義ハ一般島地ニ準シ布告布達施行期限ハ郡役所ニ
到達ノ翌日ヨリ國後郡ハ島地ノ處郡役所無之ニ付戸長役
場一到達ノ翌日ヨリ各七日ヲ以テ施行期限ト相定ノ度旨
客歳(十二月)乾第三百四十九号ヲ以テ伺出候處本年一月二十九
日難及詮議旨御指令相成候處右ニテハ實際施行上差支不
勘候ニ付前伺書ノ足ラサルヲ補ヒ今又折返シ上請候義ハ
實際不得止次第ニ有之候抑々管内ノ地形ニ據リ本廳ヨリ
各郡役所一達スル交通不便ノ次第ヲ察シ一ハ第一千嶋國
在振別郡役所(是ハ島地ニ屬ス)一ハ本廳ヲ距ル海路一百餘里及ヒ
根室郡役所部下ニ屬スル國後郡泊村戸長役場ハ仝拾弐里
餘ニシテ両地共ニ其年十一月ヨリ翌年五月迄ノ間ハ海面

アジア歴史資料センター

氷結ヲ為メニ全ク航路ヲ閉絶ス今試ニ昨十六年中両地方一向ケ航海ノ度数ノ概計ヲ挙クレハ振別方面ハ六月四日汽船初テ航行セシヨリ同十月二十七日ノ終航迄五閏月ノ間僅カニ汽船七回帆走一回ノ渡航ニ過キスシテ國後郡ハ四月二十六日航路ヲ開キ十一月二十日ニ於テ閉航ス此間汽船十四帆走二十五合計三十九回ノ航海ニ止ル以テ其運輸ノ不利交通ノ不便ナルヲ知ルニ足ル第二北見國在網走郡役所ヘ達スルモノ陸路五拾五拾壱里餘街道海濱ニ沿ヘ山位ニ横シ汐寒ノ候ハ危險ノ氷海ヲ渡リ積雪ノ山道ヲ跋渉セサルヲ得サルヲ以テ動モスレハ人馬ノ交通ヲ阻絶シ實ニ月一回ノ通行ヲモ難期又夏秋温暖ノ候ト雖モ郵便モノハ月六回ノ逓送ニ過キザルハ該地方交通ノ不便素ヨリ千島ニ譲ラズ第三釧路國在厚岸郡役所管轄地ハ前挙十島北見等ニ比スレハ運便稍自由ナルモ郵便ハ隔日逓送ニシテ冬期積雪ノ候ニ当リテハ北見街道ト殆ント同様ノ實況ナルヲ以テ少クモ一週日ヲ経過セサレハ郡役所ニモ到達セザル義ニ有之候交通ノ不便道路ノ險悪既ニ如斯然ルニ縣廳ヨリ漸次ニ派遣シタル布告布達積雪氷海等ノ為メ途中ノ郵便局ニ堆積シ此間既ニ施行期限ノ経過セシモノ翌年行路開通ニ際シ一時ニ之ヲ施行セラルヽ時ハ人民ニ於テハ其何等ノ故タルヲ知ルニ暇ナクシテ犯則者タルヿ可有之モ難計將来縣政上関係不少候ニ付曩ニ乾第三百四十九号ヲ以テ伺出候義ニ有之候得共既ニ先伺之趣御再議ニ及ハレ難キ以上ハ今更不得止次第ニ候得共其布告布達管内一配布ノ為メ当廳ニ於テ更ニ印刷ニ要ル時日モ有之施行上必至差支ノ掛念モ有之依テハ曩キニ沖縄縣一施行

期限十二日ヲ與ヘラレタル例ニ準シ本縣ノ義ハ振別地方ハ前文ニ縷述スル通リ交通不便ナレモ郡役所ヲ在ノ島地ニ分ツ第十七号布告モヨリ郡役所ヘ到達翌日ヨリ七日ヲ以テ施行期限トス特ニ到達ノ翌日ヨリ二十日ヲ以テ施行期限ト定メラレ候様致度左スレハ布告布達ノ内特ニ速知ヲ要スルモノニ限リ雪風寒天ノ候ト雖モ費用ノ相嵩ミ候義ハ暫ク擱キ態夫ヲ派シ可成此期限内ニ周知セシメ未タ布告布達ノ趣旨ヲ知得セザル前既ニ法律規則ノ違犯者トナルノ不幸無之様可仕尤モ國後郡ハ前文ニ縷述候通リ交通殊ニ不便ノ島嶼ニ付同郡泊村戸長役場ニ到達ノ翌日ヨリ七日ヲ以テ施行期限ト定ムル義トモ併テ御聽許相成度依テ本廳ヨリ各地ヲ距ル里程見取圖相添此段再應相伺候也

明治十七年三月十一日

根室縣令湯地定基

内務卿山縣有朋殿

内務省上申収税長大禮服之事

右謹テ奏ス

明治十七年九月二十四日

太政大臣三條實美印

左大臣熾仁親王印

参議大木喬任印

参議山縣有朋印

参議伊藤博文印

参議西郷従道印

参議井上馨印

参議山田顯義印

参議松方正義印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治十七年九月十八日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 谷干城 田中

内務省上申收税長大禮服之事參事院勘査進呈ス依テ

回議ニ供ス

參議

| | |
|---|---|
| 大木 | 山縣 |
| 伊藤 | 西郷 |
| 井上 | 山田 |
| 松方 | |
| 川村 | 福岡 |
| 佐々木 | |

參議 福岡孝弟印

參議 佐々木高行印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治十七年九月十八日

第二局 仰

別紙内務省上申收税長大禮服ノ件ハ參事院意見ノ通御達相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター

甲第二九二號

別紙内務省上申收税長大禮服ノ件審査スル處左ノ如シ

按スルニ收税長ノ儀ハ朝拜其外大禮服着用當然ニシテ其官等ハ八等官相當ニ付内務省成案付箋ノ通定ノラレ可然ト認定ス

右ニ由リ達案左ノ通ニテ可然哉上申候也

達案

内務省成案付箋ノ通

明治十七年九月十七日　　參事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター

参照

太政官第四拾七号達　明治十七年五月二十日

府縣官中收税長收税屬ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

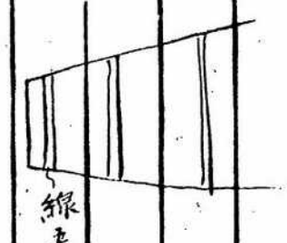
收税長　奏任八等官相當

但月俸八拾円七拾四六拾円

太政官第五拾九号達　十年十月十五日

郡長ニシテ奏任官ノ輩大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

奏任郡長大禮服章




太政官第四拾八号達　十五年八月十日

駅逓官中五等六等駅逓官大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

五等駅逓官

六等駅逓官

乾職第三五四號

収税長大禮服ノ儀ニ付工申

本年五月第四十七号御達ヲ以テ府縣官中收税長被置候処右大禮服飾章ノ制未タ御達無之右ハ来十一月天長節ノ朝モ差廻候ニ付別紙ノ通御制定至急御達相成度御達按相添以伺工申候也

明治十七年九月八日

内務卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿



アジア歴史資料センター

第七拾八号

# 御達案

## 官省院廳府縣

### 祝税長大禮服飾章左ノ通相定候條以旨相達候事

明治七年九月五日 太政大臣三條實美

祝税長大禮服章

綠五重

飾章縫色等奏任官一般ノ例ニ從フ

アジア歴史資料センター

明治十七年九月十二日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 金井 谷森 田中

内務省伺地券ニ関スル事務主管之事参事院審査進呈ス依テ回議ニ供ス

参議

| | | |
|---|---|---|
| 大木 | | 山縣 |
| 井上 | | 西郷 |
| 松方 | | 山田 |
| 川村 | | 福岡 |
| 佐々木 | | |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治十七年九月十二日

第二局印

別紙内務省伺地券ニ関スル事務主管ノ件ハ参事院意見ノ通御裁可相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

甲第一六〇号

別紙内務省伺地券ニ関スル事務主管ノ件審査スル処左ノ如シ

伺ノ要旨ハ地券ニ係ル事件ニシテ所有権ニ関スル事務ノ主管ヲ一定セラレンコトヲ稟請スルニ在リ按スルニ本邦地券ノ制タル明治五年土地売買ノ禁ヲ解カレタルヲ以テ人民自由ニ之ヲ授受セハ其土地所有権ノ確証スヘキナリ遂ニ紊乱ニ至ルノ恐アリシヨリ其所有権ヲ公証スルノ法ヲ設ケラレタル旨趣ニシテ地租課率ノ為メニ設ケラレタルモノニアラサルハ同年大蔵省達地券渡方規則第六條ノ明文及ヒ地券ノ裏書ニ於テモ判然タリ又大蔵省ニ於テハ旧地租改正事務局総裁ヘ御委任條件第二條中ニ地券ヲ渡シ云々ノ文字アルヲ以テ改租ノ業ヲ

終ヘシ後マテモ地券一切ノ事務ヲ管理スル事ト為スモノヽ如シ果シテ此ノ地券ヲ渡シノ一句ヲ根據トシテ地券ノ事務ヲ將来ニ取扱フ事トセハ同條上文ニ郡村ノ經界ヲ正シトアルニ據リ郡村經界ノ事務モ一切大藏省ニ於テ管理セサルヘカラス然ルニ郡村經界ノ事務ハ現ニ内務省ノ管スル處ニシテ大藏省ノ管理ニ屬セス故ニ地券ヲ渡シノ一句ハ改租ノ際新ニ地券ヲ渡スニ止マリ地券書換等ノ事ハ土地ニ関スル事務ヲ管理スル處ノ内務省ニ於テ管理スヘキハ當然ナリ又明治八年第二百十七号達内務省事務章程ヲ考フルニ土地ニ関スル事務即チ國郡村ノ經界ヲ始メ地所賣買讓渡質入書入等ヲ公証スルカ如キ皆同省ノ管理スル處トナレリ然ラハ則地券ニ係ル事件ニシテ所有權ニ関スル者ハ内務省ノ主管ニ屬スル方當然ニ有之其他内務卿陳辯スル所ノ理由概子允當ト存候ニ付同卿伺ノ通御指令相成可然ト認定ス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令案

伺ノ通タルヘキ事

明治十七年九月廿六日

明治十七年五月十四日

參議院議長福岡孝弟印

太政大臣三條實美殿

大藏省ヘ通牒

例文

第二条ハ五年大蔵省達第五号ニ更正ス　拠テ去年改正局大蔵省乙第六号達ヲ以テ割印ノ

参照

第五十号布告　五年二月日次

地所永代賣買ノ儀後来禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀被差許候事

大蔵省第二十五号達　五年二月日次

今般地所永代賣買被差許候ニ付今後賣買并譲渡ノ分地券渡方等別紙規則ノ通可相心得事

別紙

地所賣買譲渡ニ付地券渡方規則

第一條　地券相渡候節地券ハ最前ノ雛形通リニ製シ地主ヘ相渡地券大帳ハ二ツ折帳ニ仕立半枚ニ筆宛記載シ券状割印可致事

但腹書多分有之分ハ見計ヒ可申事

第二條　地券大帳ハ年々収税ノ照準ニ致シ地券渡済ノ上一村限地所ノ反別地券金高ト共ニ総合高取調租税局ヘ可差出事

但総合高取調方別紙表式ノ通可相心得尤モ表式ハ追テ可相達（表式略ス）

第六條　右地券ハ地所持主ヲ証ニ付大切ニ可致所持旨兼テ相諭シ置可申候萬一水火盗難ニテ地券ヲ失ヒ候節ハ二人以上ノ証人ヲ立村役人連印ヲ以テ書換ノ儀為願出可申事

但盗難等ニテ失ヒ候分後日相知レ候ハヽ早速可差出旨請書取置可申事

明治八年十一月第二百十七号達　内務省職制章程

（表式八五年大蔵省ヨリ自ヒ十五号ヲ以テ達セラレタル地租改正税表調理順序達ニ付以テ略ス）

上欄

第五條　土地ノ制規ヲ設立シ國郡ノ経界ヲ更正スルヿ

下欄

第廿九條　土地ヲ測量シ地籍ヲ編纂スルヿ

第三十條　官地民地官共有ノ土地例規ニ照シテ之ヲ處分シ及漏地ヲ撿拾スルヿ

太政官第三十八号達　八年三月廿日

内務大蔵両省間ニ地租改正事務局ヲ置キ地租改正ニ関スル一切ノ事務管掌セシメ候條此旨相達候事

八年五月十七日

地租改正事務局総裁大久保利通ヘ達

アジア歴史資料センター
Japan Centre for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

今般地租改正事務局被開候ニ付テハ明治六年七月廿八日
上諭ヲ奉體シ本局諸官員ヲ統率シ左ノ條件ヲ服膺シ以
テ地租改正法ヲ実際ニ施行スヘシ尚成効ノ上詳細具状致スヘ
キ事

第一條

凡ソ規則ヲ加除変更スルヿアラハ其法案ヲ作リ上裁ヲ経テ
施行スヘシ最各地ノ緩急ヲ審案シ施行ノ前後ヲ決定スルハ
其権内ニアルヘシ

第二條

土地ノ廣狹ヲ丈量シ郡村ノ経界ヲ正シ其所有ヲ定メ其名稱
ヲ區別シ地價ヲ定メ地券ヲ渡シ地租増減ヲ審案シ而メ人民
ノ財産ヲ奪奪スルヿナク各地ヲシテ施行其當ヲ得セシムヘシ

第三條

（弧ノ十五字五月十八日刪除）

各地方地租改正ノ調査終リテ新税ヲ施行スル毎ニ又別地價
及ヒ税額ノ増減ヲ詳記シ正院ニ具状スヘシ

第四條

凡ソ本局掛リ諸官員ノ進退奏任以上ハ之ヲ具状シ命ヲ乞
ヒ判任以下ハ之ヲ専行スルヿヲ得ヘシ

第五條

本局ノ官員ヲ地方ニ派出スル片ハ心得違無之様別段ニ命
令状ヲ授付スヘシ

十二年三月詳地租改正局乙第三号

府、縣

本年當局乙第二号達ヲ以テ地券裏面罰劃内ヘ記名所有
権ヲ移シ候ニ付テハ書式別紙雛形ノ通ニ候條尓後左ノ

順序ニ照準可取扱此旨相達候事

但地券下與及ヒ書換ノ事務ハ以来區郡長ニ於テ為取扱可申最地券臺帳ハ各區郡役所ヘ下ケ渡置可申事

地券取扱順序

所有主変換確認ノ証印ヲ乞フ時ハ裏面罫劃内ヘ別紙雛形ノ如ク官姓名ヲ記入捺印シ其旨ヲ臺帳ニ登記シ之レヲ下付スヘシ

水火盗難遺失ニ係リ新規書換ヲ要スルトキハ表面第一罫内地券ノ文字下ニ左ノ捺印ヲ要スヘシ

水災書換　火災書換　盗難書換　遺失書換

表面ノ反別或ハ地價地租ニ増減ヲ生スルトキハ必ス新規書換エルモノトス

貳人以上共有ノ地ハ成ル可ク其姓名ヲ悉記スヘシト雖モ餘白ナキモノハ外何人ト記シ連名簿貳冊ヲ添付セシムベシ

前條連名簿ヲ要スルモノハ表面ハ地租ノ次罫ヘ裏面ハ欄内名面ノ上ニ別冊連名簿添付ト記入（雛形第三号ノ如シ）シ券状ト共ニ下附スヘシ最モ一冊ハ之ヲ區郡役所ニ留置クモノトス

數人共有ノ地所券面記名ノ者賣買譲與等ニ係ルトキハ普通ノ手續ヲ以テ所有ヲ移スベシト雖モ若シ外何人ト記入ノ内賣渡譲與等ニ係ル如キハ連名簿中ノ賣（譲）主ノ姓名ヲ抹朱シ其結尾ヘ買（受）主ノ姓名ヲ記入シ上頭ヘ年月日何某分買得（或ハ譲受ト朱記）確達セシメ區郡役所ニ留置ク處ノ名簿モ同ク更正ヲ加ヘ一冊ハ之ヲ下戻スヘシ

但買受主ノ姓名ヲ結尾ヘ記入シ難キ節ハ賣譲主則チ
株朱セシ姓名ノ上頭ヘ記載スルモ苦シカラス
所有主轉居及ヒ改姓名ハ朱書ヲ以テ（雛形第一第二号ノ如シ）更正主
任之レニ捺印シ臺帳ヲ訂正スヘシ
但共有連名簿添付セシモノニテ外何人ト記名ノ者改
姓名等ハ連名簿ニ年月日改姓名或ハ轉居等記入住
セシメ區郡役所ヘ留置キシ名簿訂正ノ上下ケ戻スヘシ
地券下與及ヒ書換ヲ為シタルモノハ壹ケ月毎ニ取束ネ
簡明ノ表面ニ記載シ府縣廳ヘ報告致サスベシ

地券雛形略之

十四年六月三十日第五拾九号達

地租改正事務局本月三十日限相廢シ残務ノ儀ハ大藏省
ニ於テ取扱候條此旨相達候事

地租改正事務局伺

明治六年七月地租改正法ヲ頒布セラレ尋テ八年五月
本局創置ノ末改正ニ関スル諸般ノ事務ヲ辦理候處其
事業ノ尋常ナラサルヲ以テ實施ニ當テヤ種々ノ支障
ヲ来タシ竣功豫期セシ如キニ至ラス荏苒歳月ヲ経過
セシモ漸ク今日其成績ヲ奏スルニ至リ尤山林原野
ノ小部分整理中又劣状授與中等若干ノ事務ヲ残スト
雖ヒ是皆枝葉ニ陟ル瑣々タル残務ニシテ最早一局ヲ
被立置候程ノ事無之経費ニ於テモ七月以降ニ係ル分
ハ豫算モ不申立旁過般申上候通本局ノ儀ハ本月ヲ限
リ閉鎖セラレ残事務整理ノ儀ハ曾テ御委任相成候條
欵ノ通大藏卿ヘ御委任相成度是迄執行事務顛末ハ不

日具状可仕候ヘ共先以本局閉鎖ノ儀上申候也 十四年六月日欠○

曾テ御委任ノ條欵ハ八年五月十七日故総裁大久保参議ヘ委任状ナリ

會計部議案

別紙地租改正事務局上申該局閉鎖ノ件ハ御聽許相成可然因テ内務部快議ノ上御達案ヲ付シ仰高裁候也

地租改正事務局達 十二年三月廿八日

乙第二号

地券用紙ノ儀自今製造ノ分ハ別紙雛形ノ通改正可相渡候條此旨相達候事

府縣

別紙 地券用紙 雛形

表

大日本帝国政府

地券

地價

此百分ノ三金
明治十年ヨリ
此百分ノ貳ケ半金

地租

持主

右檢査之上授與之

明治年月

主事

裏

日本帝国ノ人民他ノ所有スル土地ヲ買入ル之ノ場合ニ於テハ

日本帝国外ノ人民此土地ヲ所有スル権利

同

其所有ノ土地ヲ帝国ノ人民ニ賣渡ス場合ニ於テハ

他ノ所有ノ土地ヲ有ト認ムル

是ハ人民ノ所有スルモノハ其地ノ適意所用ノ人ニ

同

所有スル権利ハ

同

テ其規則ニ遵ヒスシテ若シ其規則ニ違スシテ地券ヲ有スルモノハ其利ヲ得サルモノトス

同

書面増減ヲ記載シ所有スル者ハ雛誌ス

主事

乾戸甲第二四壱号

地券ニ関スル事務主管ノ義ニ付稟議

土地ニ関スル事務ハ八年第二百十七号達當省事務章程ニ
據リ之ニ附着シタル地券ノ事務ト共ニ處理致来候処旧地
租改正局ニ於テ改正ノ為メニ新地券ヲ一般ニ付與スル事
件ノミナラス将来ノ地券書換事務ヲモ取扱相成然ルニ地
券書換ノ事タル所有權ノ移轉ニ関スルヲ以テ當省ト同様
ノ事務ヲ處理スル姿トナリ従ツテ主管上ノ紛議ヲ生ス
ニ至ル丁屢々之レ有リ而テ同局ニ於テ主管タルヲ主張ス
ルノ根據ハ同局章程第二條中地券ヲ渡シノ一句アルニ由
ルト雖ヒ此一句タルヤ全国一般ノ改正ヲ為スニ當リ新ニ
地券ヲ渡スニ止マリ将来ノ地券書換事務ヲモ處理スル意
義ヲ含蓄セサル丁ハ章程ノ全面ト該局ノ大躰ニ就テ最モ

見易キモノナリ且其際所有權ヲ主トシタル事件ニシテ地券書換ニ関スルモノハ内務省ノ主管トシ地券書換ヲ主トシタル事件ニシテ所有權ニ渉ルモノハ改正局ノ主管トセンコトヲ同局ヨリ協議ニ及ヒシコトアリト雖此區別ヲ立ントスルキハ各自主他ノ意見ヲ異ニスルカ故ニ實際ニ於テハ決テ紛議ヲ断ツ能ハサルナリ爾後同局ノ事務モ僅ニ山林原野ノ小部分ヲ殘シタルニヨリ該局ヲ閉ラレ單ニ殘務ノミ大藏省ヘ被相付候處大藏省ニ於テハ右殘務ノミナラス旧改正局同様地券事務ノ主管タルヲ主張シ屢々當省ト紛議不相止職トシテ殘務ヲ被付候誤解ト存候已ニ本年二月大藏省達第七号ノ如キモ當省ヘ一應ノ協議モナリ同省限リ達ヲ為シタル不都合モ有之其他各府縣申牒ニ對シ主管ヲ爭フヤ為ナニ徒ニ指令ヲ遷延人民ノ難儀ヲ與フル等目下難棄置次第モ有之到底協議上ニテハ難整次第ニ相成候ニ付此際両省權限ノ確定ヲ仰カサルヲ得ス依テ当省ノ主管トスヘキ理由ノ二三ヲ開陳センニ地券ハ土地ノ所有權ヲ確認スルモノニシテ土地ト相離ル可ラサル其一ナリ土地所有權ノ移轉ハ即チ地券ノ書換ヲ要スルモノニシテ之ヲ分ツテ處分スルコトヲ得サル其二ナリ從来各地方ヨリ申牒ニ所有權ニ関係ナリシテ單ニ地券事務ニ関スルモノハ地券用紙ノ下付証印税等ノ數件ニ出ス其三ナリ右ノ理由ナルヲ以テ土地ノ事務ノミ当省ニテ主管シ地券ノ事務ハ大藏省ニテ主管スル義ハ事理ノ不適当ナルノミナラス實際為シ難キ義ニ有之假リニ從来大藏省ノ主管タリトスルモ土地ノ事務ヲ当省ニテ管掌スル以上ハ地券事務モ一省ニ管理セサル可ラス況ンヤ最初ヨリ当省ニテ管掌シタル

事務ナレハ無論大藏省ノ主管ト為スヲ可ラサルモノナレハ
ニ依テハ地券ニ係ル事件ニシテノ所有権ニ関係アルモノハ
總テ当省ノ主管ト被定候様致度候間至急御裁決相成度此
段及上申候也

明治十六年七月九日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

追申御参考ノ為ノ現今紛議ニ係ルモノ、内別冊四件差
出候間御閲覧ノ上御返付相成度候也



明治十七年九月十二日

大臣（三條 有栖川）

内閣書記官（金井 谷森 田中）

懸高聲省伺第三種第四種郵便物帯紙ヘ
年月日記入之事参事院勘査進呈ス依
テ回議ニ供ス

参議

| 大木 | 井上 | 松方 | 川村 | 伊藤 |
|---|---|---|---|---|
| 山縣 | 山田 | 福岡 | | |
| 西郷 | | | | |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年九月十一日

第一号 印

別紙農商務省伺第三種第四種郵便物帯紙
ハ年月日記入ノ件ハ参事院上陳ノ通御施行
相成可然歟仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲第二八八號

別紙農商務省伺第三種第四種郵便物帯紙ヘ豫約前収金ノ期限年月日記入ノ件審査スル處左ノ如シ

新聞紙雜誌等ノ結束帯紙ヘ購讀者ト発行人トノ間ニ於ケル豫約前収金ノ期限年月日ヲ記入郵送スルハ條例第八條ノ暗號隱語ノ類ニアラサルハ勿論又純然ノ音信文トモ云ヒ難キ義ニ付伺ノ通裁可相成可然ト視認ス

右ニ由リ指令按左ノ通ニテ可然哉上申候也

指令案

アジア歴史資料センター

伺ノ通

明治十七年九月廿六日

明治十七年九月八日　參事院議長福岡孝弟印

太政大臣三條実美殿

第三種第四種郵便物帯紙ヘ年月日記入ノ義ニ付伺

新聞紙雑誌等ノ結束帯紙ヘ購讀者ト発行人ト豫約スル談紙冊類前収金ノ期限年月日ヲ記入郵送致度趣出願ノ向有之處郵便條例第八條ニハ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆記スルトキハ第一種郵便物トナスベシトノ明文有之候得共當ニ豫約前収金ノ期限年月日ヲミヲ記入ノ義ハ敢テ暗號隱語ニ談当候トモ決シテ難ノ殊ニ是迄進呈寄贈又ハ差立ノ年月日等ハ音信文ヲ記入セシモノト見做サヽル慣例ニ付豫約年月日記入ノ義モ談振合ニ

準シ暗號ト見做サスシテ可然哉乞歐米等
ノ郵便方法モ一ト通リ取調度處米国ノ如キ
ハ前金滿期ノ時日ヲ刋行或ハ筆書スルヲ得
ベシト、明文モ有之英佛等ノ各国ニハ音信
文ノ性質ヲ具フル文字ヲ禁スルノミ年月日
等記載ノ可否ハ見當リ不申候得共新聞業務
及豫約用ニシテ音信文ノ性質ヲ具セザル事項
ヲ印刷スルヲ得ルノ明條有之且ツ現物ニ附キテ
ハ往々豫約ノ年月日記入ノモノヲ見請度向モ
有之趣相聞候ニ付旁前文結束帶紙等ハ豫
約期限年月日記入ノ儀ハ聞置候テ可然哉坎
段相伺候也

明治十七年八月廿日

農商務卿西郷從道

太政大臣三條實美殿

元老院上奏藥品取扱規則中文字削除之義布告按之事

右謹テ奏ス

明治十七年九月廿六日

太政大臣三條實美印

左大臣熾仁親王印

聞

アジア歴史資料センター

明治十七年九月廿二日

大臣 三條 有栖川

内閣書記官 石森 田中

元老院上奏藥品取扱規則中文字削除之義布告按之事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治十七年九月廿二日

第二局印

別紙元老院上奏藝品取扱規則中文字削除ノ義布告案ノ件
ハ參事院調査上申ノ通御施行相成可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲第二九九号

別紙元老院上奏擧品取扱規則中文字削除ノ儀布告案調査候處不都合ノ廉無之ニ付上奏ノ通布告相成可然哉上申候也

明治十七年九月十九日

参事院議長樺山資紀印

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター

乾第四百四拾九号

本月一日下付有之候樂部取扱規則中削除ノ儀今八日本院議定案勅裁ヲ仰キ候為メ御上奏有之度候也

明治十七年九月八日

元老院副議長東久世通禧

太政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本月一日下付セラレシ所ノ藥品取扱規則中削除ノ儀今八日會議ニ於テ本案可ト決セリ仍テ謹テ之ヲ上奏ス

明治十七年九月八日

元老院副議長正三位勲二等伯爵東久世通禧印

アジア歴史資料センター

布告案

第貳拾五号

明治十三年月第壱号布告學品取扱規則第二條但書中無賞ニテ其ノ五字ヲ削除ス

右奉勅旨布告候事

明治十七年九月廿九日

太政大臣

内務卿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

藥品取扱規則中削除ノ儀

右其院議定ニ被付候事

明治十七年九月一日

太政大臣三條實美

元老院議長佐野常民殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

内務省伺藥品試驗手數料徵收並藥品取扱規則中文字
削除之事

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治十七年七月三十日

可

太政大臣三條實美印
左大臣熾仁親王印
參議大木喬任印
參議山縣有朋印
參議伊藤博文印
參議西鄉從道印
參議井上馨印
參議山田顯義印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治十七年七月十六日

大臣 三條有栖川

内閣書記官 谷森明中

内務省伺藥品試驗手數料徴收并藥品取扱規則中文字削除之事參事院勘査進呈ス依テ回議ニ供ス

參議

| 大木 | 伊藤 | 井上 | 川村 | 佐々木 |
|---|---|---|---|---|
| 山縣 | 西郷 | 山田 | 福岡 | |

參議 川村純義印

參議 福岡孝弟印

參議 佐々木高行印

アジア歴史資料センター

明治十七年七月十六日

第二局　印

別紙内務省伺製品試験手数料徴収并製品取扱規則中文字削除ノ件ハ参事院審査上申ノ通元老院議定ニ被付可然哉仰高裁候也

アジア歴史資料センター

甲第二二六号

別紙内務省伺藥品試驗手數料徴收并藥品取扱規則中文字削除ノ件審査スル處左ノ如シ

按スルニ藥品試驗ノ儀ハ藥商等藥品ノ精粗良否ヲ鑑別スル能ハスシテ贋惡ノモノヲ賣買スルコトアル片ハ容易ナラサル禍害ヲ生スルノ恐有之候ニ付此禍害ヲ豫防セシカ為メニ藥品試驗所ヲ東京大阪横濱ニ設ケ藥商ノ申請ニ應シ無手數料ニテ試驗ヲ許サレタル次第ニ有之候處右藥品試驗所試驗濟ノ印紙ヲ貼用スル藥品ハ頗ル世上ノ信用ヲ博シ其印紙ノ有無ハ實ニ藥品ノ價格ニ多少ノ影響ヲ及ホス程ノ勢ニ相成リ藥商ニ於テハ競テ試驗所ノ印紙ヲ貼付セントコトヲ之レ望シ藥品ノ試驗ヲ申請スルモノ近來日一日ヨリ增加候ニ付テハ試驗ノ為メ

ニ要スル所ノ経費モ漸ク相嵩ミ徴ハ必然ノ次第ニ徴ヘ
ハ今ヨリ相當ノ試験手数料ヲ徴収スルハ不都合ノ事ニ
有之間敷且若干ノ手数料ヲ徴収候トモ最早業務ニ於テ
困苦ヲ感スル程ノ事ハ無之ニ付同ノ趣御裁可ノ上薬品
取扱規則第二條改正相成可然ト認定ス
右ニ付布告并指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

布告案

内務省成案ノ通

明治十七年七月廿九日

内務省ヘ指令案

伺ノ趣聞届候事

同日

明治十七年七月九日

参事院議長 福岡孝弟

太政大臣三條實美殿

九月院議定

参照

明治六年九月十四日文部省伺

諸港贋造藥品輸入ノ儀ハ事實追々上陳仕候通既ニ確
證モ有之遷延据置候テハ不知不識多少ノ人命ヲ傷害
シ方今人民保助ノ御趣意ニモ相戻リ候場合ニ立至リ
実以不容易儀ト存候間暫向神奈川長崎神戸ノ三港ヘ
各一局ヲ取設當分ノ内外国教師一名ヅヽ御雇入ニ相
成舍密学心得候官員ヲ附属派出為致地方官税関協議
精細檢査行届候樣處分致度存候此段至急御評決有之
度奉伺候也

但長崎ノ儀ハ同省医学校御雇教師ヘ兼務為致可然
儀ニ候得共尚又打合確定ノ上上陳可仕候其他開港
場ニ於テハ藥品輸入モ僅少ノ儀ニ付追々着手ニ可

及且司藥局営繕入費等ハ追テ本文御許可相成候上
取調可申上存候也
指令六年十月五日
伺之趣聞届候條猶規則等取調早々可伺出事
但本年六月中相達候通醫制創立ノ儀モ勘諸方ヘ入
ヘカラサル事
法制課議案
別紙文部省上申輸入藥品檢査ノ儀及審査候趣左ハ今
日ニ始リ候儀ニハ無之昨年九月中長崎醫學校ニ於テ
舶來ノ藥品贋造ノ物有之特ニ効用ノ有無ノミナラス
人民ノ夭折ヲ招キ其関係少カラス仮令取締ノ規則御
創建有之度段建議ノ趣右ハ不容易儀ニ付各開港場稅
関ニ於テ速ニ取締ノ方法御建設有之度段文部省ヨリ
上申候ニ付則同年十月中取締方法外國教師ヘ篤ト承
合取調更ニ可申出旨同省ヘ御指令有之隨テ十一月中
御國内醫師及藥商共其良否真贋ヲ辨識スル能ハス
シテ其價値ノ高低ヲ論シ之ヲ抑買スルニ坐スレハ政事
上ニ於テ其規矩ヲ立各國政府ト結約シ其舶載ヲ防リ
ハナリ先ツ醫員裁判官共ニ三人并ニ歐洲ノ醫師同製
藥家一人ツヽ會同協議シテ其輸入購買ニ関スルノ規見
律ヲ一定スヘキ趣教師ヨリ建言ニ及ヒ候ニ付テハ司
藥局ヲ被為設輸入ノ藥品ヲ取調度段上申ニ及ヒ其後
御指令モ無之處本年三月ニ至リ外務省ヨリ藥劑輸入
ノ規則相立真贋ヲ察シ萬民愛護ノ御趣意ヲ貫度趣并
ニ四月ニ至リ大藏省ヨリモ藥品ノ儀先般長崎港ニ於
テ贋品輸入致シ其後横濱港ヘモ僞製ノモノ賣送ニ附

テハ不容易事件ニ付至急取締ノ方法御設立有之度段
建白ノ末則六月ニ至リ醫制取調ノ儀被　仰出且司藥
局ノ儀ハ醫制ノ一部分ニ有之候處今般醫制創立取調
被　仰付ニ付テハ本議ノ儀ハ其内包括イタシ候儀ニ
付醫務ノ章程著手ノ順序見込相立可申出旨文部省ヘ
御指令ニ相成候手續ニ候處未タ醫制モ編纂ニ及ハサ
ル内尚又別紙ノ通申出候ハ御指令ニ對シ不都合ノ儀
ニ付差當リ尚最前ノ御指令ニ因リ醫制創立ノ儀トモ
早々可伺出旨御指令ニ相成リ至當ノ儀ト被存候得共
從來国内ニ於テ醫制ハ更ニ草創ニ屬シ動モスレハ正
祝ト醫ヲ以テ併稱セラルヽ程ノ儀ニ付一時ニ調査届
兼候モ理ナシトセス サレハトテ之カ為メニ時日ヲ遷
延シ其間輸入ノ藥品真贋ノ擇ハス國内ニ班布候テハ
是又濟衆ノ御趣意ニ戻リ不容易儀ニ有之前文陳述ノ
如ク醫制取調ノ儀御指令ニ相成候ハ元來長崎醫學校
贋品取締ノ儀ヨリ起リ右取締ノ儀ハ大藏外務ニ有ノ
意見モ同一ニ御坐候ニ付醫制調査ノ遲緩ヲ入ヘカラサ
ルハ勿論ニ候得共先其一分ヨリ開手イタシ漸ニ醫制
ノ大成ニ及ホシ候モ却テ事理順序ニ歩ヒ可申歟然リ
ト雖モ官員ノ多少営繕及ヒ一歳ノ經費本局ノ規則等
大凡開陳無之候ハヽテハ御許可ニモ難相成儀ト被存候
仍テ御指令案取調候共高裁候也　九月日

明治六年十一月七日　文部省伺

先般御聞届相成候試藥場費用概算藥品檢査畧則有力
藥品表別紙ノ通取調上陳仕候右實地施行ニ付テハ多

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

方ノ経費モ相掛リ候ニ付教師官員等ハ於當有的當ノ
人物夫々撰挙可仕候ヘ共経費ノ儀ハ當有定額ノ外別
途御出方相成候様仕度此段至急御沙汰相伺候也
追テ本文藥品検査ノ儀ハ従前取締ノ方法更ニ無之
新ニ着手候ニ付テハ兼テ上陳仕置候司藥局方法ノ
通リ目今俄ニ難行事情モ有之候間彼是斟酌仕候尤
実地施行ノ際人民開化ノ度ニ隨ヒ改正増補致シ数
年ヲ候ヲ漸次司藥ノ方法整頓相運度此段添テ申上
候也

指令七年一月十七日

伺之趣聞届金壱万五千円定額ノ外別途相渡候條大蔵
省ヨリ可受取事

明治七年二月十三日　文部省伺

先般三港ヘ試藥所設立御許可相成順次着手可仕處先
以テ東京府下ニ司藥場ヲ設ケ各所ノ根本ト定メ全國
ノ藥品取締候條設立致度此段至急御沙汰相伺候也
追テ司藥場方法ノ儀ハ壬申年上陳仕置候ヘ共当分
施行ノ儀ハ三港試藥所規則ノ通リニ候此段添テ申
上候也

指令七年三月十四日

伺之趣東京府下限リ施行ノ儀ハ聞届候條実際不都合
ナキ様漸次着手可致事

左院議案

別紙文部省上申東京府下ヘ司藥場設立各所ノ根本ト
定メ全國ノ藥品取締可致ト儀一應尤ニ相聞ヘ候ヘ

アジア歴史資料センター

既今日ノ景況実際施行上ニ於テ行ハレ難キノミナラ
ス多少ノ費用ヲ要スヘキ者ニ付旁以同省ヘ同合候處
別紙伺書ヘ貼紙ノ通当府下限リ施行ノ積リ尤先般伺
済三港試薬場費金定額ノ内ヲ以取賄候趣ニ候ヘハ左
ノ通御指令可然存候則左案取調上陳候也　三月十日

明治十三年第壱号布告

## 薬品取扱規則

第二條　云々

但薬舗ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ
最寄司薬場ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルコト
ヲ得

乾衛第二六六号

## 薬品試験手数料徴收並ニ薬品取扱規則中文字削除ノ義伺

政務ノ改進ヲ圖ルカ為メ歳出ノ増嵩ヲ要スルハ必然ノ理
勢ニ候處歳出ノ増加ハ殆ント毎年免カレ難カラサルモ歳
入ノ増加ニ至テ然ラサルハ寔ニ視易キノ實況ニ有之候故
ニ多少ニ限ラス歳入ヲ増收シ得ヘキモノハ之ヲ遺棄スヘカ
ラサルナリ當省主管ノ事務ニ付キ増費ノ申請ヲ為スモ歳
計上ノ御都合ニ依テ御裁可ニ至ラサルモノ寡カラス然ル
ニ當省衛生局東京大坂横濱ノ三試験所ニ於テ挙行スル薬
品試験ノ手数料ヲ徴收セハ先ツ十七年度ニ於テ三萬七千
乃至四萬圓ノ新收入ヲ視即チ歳入ノ増加ヲ生シ候ニ付自
然増費申請ノ幾分ヲ補充候様可相成歟元来右三試験所ニ



アジア歴史資料センター

於テ舉行スル藥品試驗ノ義ハ開港通商ノ始ニ當リ我不學
幼稚ナル藥舗ノ為メニ代リテ藥品ノ精粗良否ヲ鑑別シ以
テ質惡藥輸入ノ禍害ヲ防クノ目的ニ出テ候義ニ付明治七
年元司藥場創設ノ時ヨリ今日ニ至ルマテ藥舗ノ出願ニ應
シ無賃ニテ試驗致来候處該所試驗濟ノ印紙ハ漸ク世上ノ
信用ヲ得其試驗印紙ヲ貼付スルモノト否トハ藥品市場ニ
於テ大ニ價直ノ等差ヲ生スルノ勢ニ相成候ヨリ藥舗ニ於
テハ只管試驗所ノ印紙貼付ヲ得テ利益ヲ市場ニ占メント
ヲ主トスルノ傾向ニ相成其藥品鑑定ノ難易ニ拘ハラス試
驗ヲ出願スルモノ年ニ月ニ増加シ到底限アル技術者ヲ以
テ限ナキ請求ニ應スル丁能ハサルハ勿論其實前述ノ如ク
射利ノ目的ニ出テ候モノ多キニ居リ候義ニ付家早家費試
驗ノ事ヲ政府ニ負擔スルヲ要セス相當ノ試驗手数料ヲ收
メ候ハ當然ノ義ニシテ決シテ藥舗ノ為メニ迷惑ヲ来シ候
様ノ義ハ無之然ル上ハ飲食物其他ノ試驗分析ノ如キモ相
當ノ手数料ヲ收メ候方可然ト存候間右手数料徴收額相定
メ別紙乙号案ノ通當省ヨリ告示致度就テハ十三年第一号
布告藥品取扱規則中無賃試驗云々ノ文字聊抵觸致シ候間
右文字削除ノ義甲号案ノ通御布告相成候様致度別紙両案
相添此段相伺候也

明治十七年六月十一日　　内務卿松方正義

左大臣熾仁親王殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

甲号梅

第号

明治十三年月第一号布告薬品取扱規則第二條但書中無

費ニヲ基ノ五字ヲ削除ス

右奉　勅旨布告候事

大臣

内務卿

明治十三年九月廿日

アジア歴史資料センター

乙号案

御裁可後告示案

甲第　号

當省衛生局（東京大阪出張所）試驗所ニ於テ擧行スル藥品其他ノモノ試驗手數料左ノ通相定メル　月一日ヨリ傚ひ候條此旨告示候事

年月日

内務卿

試驗手數料品目

一注意藥毒藥劇藥一容（一瓶一箱ノ類以下倣之）ニ付金五錢

但大容器ノ藥品ヲ試驗シタル上小容器ニ分チテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容トス以下倣之

アジア歴史資料センター

一通常藥　一容器　金三錢

一飲水　飲料適否鑑定　完全ノ定量分析　金十五錢　金壹圓三十五錢

一鑛泉　一二成分定性分析　完全ノ定量分析　金十錢　金二圓

一乳汁類　濃厚、脱脂及雜物鑒定　常成分定量分析　金十錢　金七十五錢

一肉類　腐敗微鏡檢査　水分脂肪葉酸成分定量分析　金十錢　金七十錢

一酢醤油味噌　一二成分定量分析　普通定量分析　金二十錢　金七十五錢

一食塩　夾雜物定性分析　各成分定量分析　金二十錢　金壹圓

一砂糖類　糖分定量分析　糖分定量並雜物檢査　金二十錢　金七十五錢

一酒類　酒精並ニエキス分定量分析　普通定量分析　金二十錢　金一圓

一着色料　有害物定性分析　各成分定量分析　金二十錢　金一圓

一菓子衣服料玩具壁紙類　有害顔料檢査　金十錢乃至五十錢

一賣藥　毒藥劇藥配合鑑定　全定量分析　金三十錢乃至三圓　金五十錢乃至五圓

一金屬　金五十錢乃至二圓

右ニ掲載セサル品ハ其試驗ノ難易ニ因リテ手數料ヲ定メ之ヲ徴收スヽシ